

1部：見分けの鍵（ルカ 12：54-59）

知識（経験）は必要なものだが、人生の本当の問題解決に役立つかは別なら、人の知識（経験）に対する信者の正しい姿勢とは？

1. 知識（経験）の限界を認め

1) 知識を得るあらゆるきっかけ

2) 真理に至れない人の知識（経験）

①人間 ②問題 ③必要 ④幸せ

3) 真理を暗ます人の知識（経験）

①ピリピ 3：8②進化論③ユダヤ人

2. 人生の破滅を止められない人の知識（経験）

1) サタンの罠

2) サタンの枠

3) サタンの足かせ

4)エペソ 2:1-3

5) 神様との和解（キリスト）

何かを知っていることが真理とは限らないことを忘れないように！

キリスト中心の人生解析、キリスト中心の歴史解析をして、知識を武器にしないでキリスト（御言葉）を武器にして知識（経験）を真理のための道具にしよう！

2部：可能性の崩壊（創世記 11:1-9）

“世の中まだ捨てたもんじゃない”というフレーズは、この世界はまだ可能性があるという意味だろうけど、本当にそうなのだろうか。

信者なのに、この世への欲と未練を断ち切れないのはなぜだろう。

1. 可能性に希望を

1) 疎通と意見の一致

2) 文明の発展(進歩)

3) 協力と団結

4) 究極のヒューマニズム

5) サタンの策略-神への敵対

2. 可能性の崩壊

1) 神の愛

2) 災難(自然災害)

3) パンデミック

4) 戦争

5) 大国衰退

6) 神の啓示

3. 神様の愛、救いに希望が

1) 絶対不可能から

2) 創世記 3:15

3) 出エジプト 3:18

4) イザヤ 7:14

5) マタイ 16:16、使徒 1:8、マタイ 24:14

人間に優れた面があるからと言って、そ

れに希望を見るのは NO!優れた部分がな
いから失望することも NO!言える信者に
なろう！

世界は可能性に満ちて希望あるところ
と見ることは幻想で、この世界は「将亡
城」で、救いの為に神様が憐れみをもつ

て維持しているところ、つまり宣教地で
あることを告白し、この世を旅人として
生きよう！だから、現場(職場)には救い
の働きの為に遣わされていることを覚
えて祈り、現場で得られたものは宣教の
為に捧げる信者になろう！

1部-ルカ 12:54-59 見分けの鍵

なるほど/

人の知識(経験)は真理には至れなく、むしろ真理を暗ませるサタンの道具になり、人生の破滅を止めることなど出来ない。

ならば/

「知識(経験)=真理」ではないことを忘れずに、キリスト中心の人生解釈、歴史解釈して、キリスト(御言葉)だけを武器に知識はその為の道具にしよう！

2部-創世記 11:1-9 可能性の崩壊

なるほど/

人の可能性に希望を見る人類に、それは幻であることをバベル塔の崩壊を通して示して、神様の愛によるキリストの贖いだけに人類の希望があることを示される。

ならば/

人間の可能性に希望を見るすべてに No を突きつけて、この世界は「将亡城」で、救いの為に神様が忍耐をもって維持している宣教地であることを改めて、自分の現場を宣教地とし、現場で得られたすべてを宣教の為のものと受け止めて捧げる信者になろう！